



発行 一般社団法人 相模原市医師会

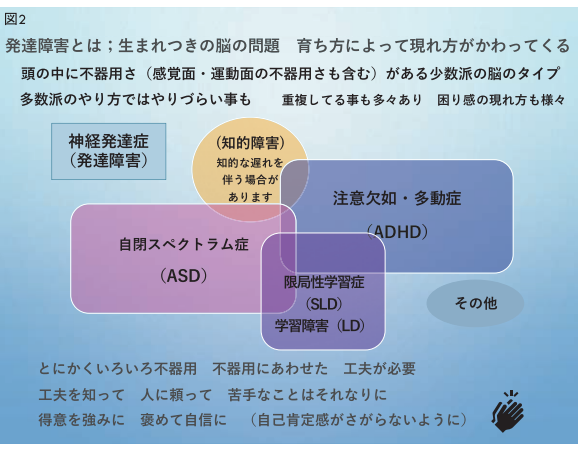
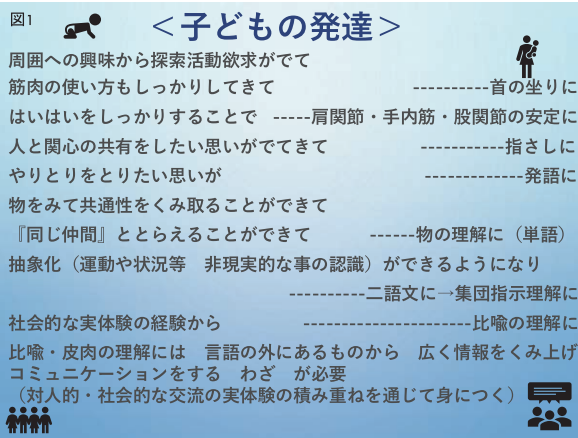
5月のやわらかな陽ざしとともに、新生活にも慣れ始める一方、心身の不調が出やすい時期です。本号のテーマ「発達障害」では、市で始まった5歳児健診などで早めの相談と支援の大切さを解説しています。「5月病」でも、この時期の不調への向き合い方を紹介しています。ぜひご自身やご家族の健康づくりにお役立てください。

発達障害

発達に携わっている小児科医の立場から

はじめに ~いろいろこじれてくる前に~

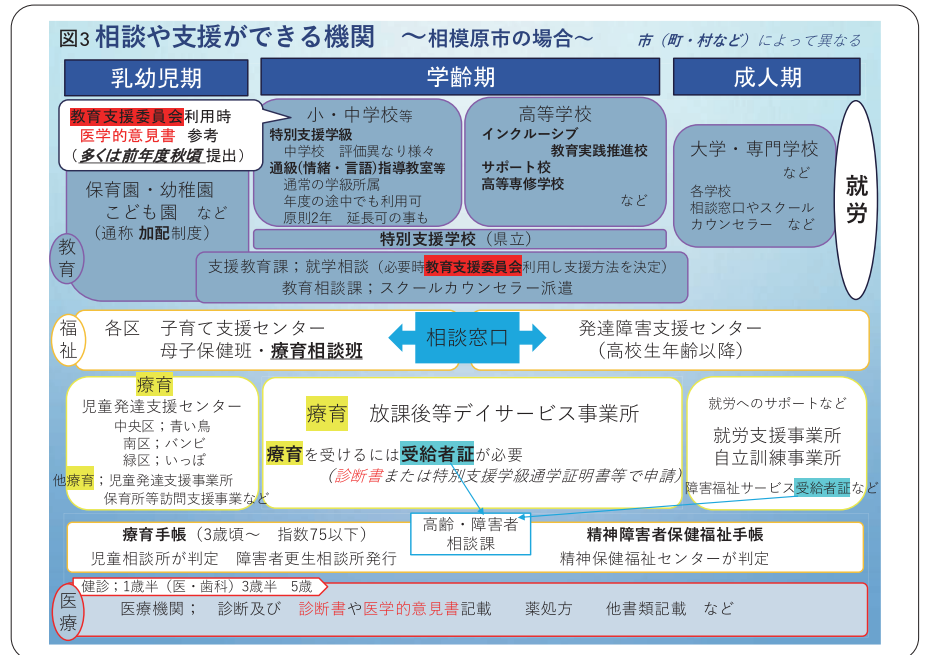
気になるお子さんに時々遭遇します。健診では、目で追うことが苦手だったり、体がぐにゃぐにゃしていたり、拒否して床に寝転んでいたり、まったくしゃべらなかつたり、しゃべり過ぎる等々です。健診は社会性も含めた発達面も診ています。5歳児健診がはじまり、相談するきっかけの機会が増えます。一般診察では登園・登校時にお腹が痛い等で小児科を受診する子もいます。理由はいろいろなのでしょう。登園・登校渋りの中には発達障害が根本の原因の一部になっている事もあります。多数派のやり方があわない事もあり、自信がなくなってしまうたり、安心・安全の場を得にくい事もあるかもしれません。いろいろこじれてくる前に、本人（または周囲）に困り感がある場合、支援（療育）・配慮を受けたほうがよい場合もあります。発達の過程（図1）で、何か気になる事はありますか？困り感はありませんか？発達障害（図2）の相談・支援について触れてみましょう。



支援（療育）について ~気になるお子さん 8.8% (いやそれ以上)~

2022年文科省の統計によると、小・中学校で通常級の児童生徒（診断を受けている、知的な遅れのある児童生徒を除く）の中で、気になる児童が8.8%。診断されている児童等も入れると学年の中の割合はもっと多くなります。もちろんすべてが発達障害ではありませんが支援・配慮が必要な事もあります。保護者さんとしては『すぐに指摘してほしい!』と思うかもしれませんが、しかし医師・先生（保育園・幼稚園等含む）でも、指摘するのは難しい場合もあります。保護者さんから歩み寄って聞いてみて下さい（小規模園が増え、比較する同学年が少ない今では尚更です）。療育（支援）の目的は①特性にあわせた工夫を受け、自己肯定感が下がらないようにする事、

②適切なヘルプ発信をして人に頼れるようにする事、です。困り感が改善しづらい場合には服薬が助けになる事もあります。支援決定に医師の書類（教育支援委員会では医学的意見書を参考）が必要な事もあり、相談時期がずれると翌年度、行政中心の支援がうまく受けられない事もあります（図3）。



相談は早めに・支援は相談しながら ~一緒に遊んだり、読み聞かせを~

指示の理解が進まない低年齢（概ね3歳未満）や知的にゆっくりなお子さんは、療育をはじめめる時期や内容によって逆効果の事もあります。子育て支援センターで相談しながら、まずは日常生活動作（食事、着替え、排泄等）を進める工夫をし、体を動かして（手押し車、鉄棒、ジャングルジム、ボール遊び、塗り絵や間違え探し等）保護者さんが一緒に遊んだり、読み聞かせをして下さい。画像を見るとしたら大きな画面で一緒に話をしながら見て下さい（長すぎないように!）。一辺倒な画像や音声だけでは、双方のやりとりは進みません。

おわりに ~いろいろな人に相談を~

適切なタイミングでお子さんにあった支援（療育）を受けるには、いろいろな人に相談して下さい。将来のお子さんを想像しながら、お子さんの困り感・予想される困り事に寄り添って、「だいじょうぶ」が増えて、その子らしく、たくましく過ごせるようになるといいですね。

(相模原市小児科医会 根本 文子)

相模原市内科医会市民公開講座

日時 令和8年7月12日(日)午前10時~11時20分
場所 相模原市民会館 3階 第1大会議室
演題 令和時代の2型糖尿病との付き合い方 ~今までの常識を考え直しませんか~
講師 相模原赤十字病院栄養課 番 義幸 先生
相模原赤十字病院内科 伊藤 俊 先生
申込方法 二次元コードまたは電話にて、6月30日(火)までにお申込みください。
問合せ先 相模原市医師会総務課 電話042-755-3311
※入場無料、定員先着申込100名
※定員になり次第締め切らせていただきます
※詳しい内容については相模原市医師会ホームページ
(<https://www.sagamihara.kanagawa.med.or.jp/>)をご覧ください

